

経営比較分析表（令和6年度決算）

栃木県地方独立行政法人栃木県立がんセンター 栃木県立がんセンター

法適用区分	業種名・事業名	病院区分	類似区分	管理者の情報
地方独立行政法人	病院事業	一般病院	200床以上～300床未満	非設置
経営形態	診療科数	DPC対象病院	特殊診療機能 ※1	指定病院の状況 ※2
直営	31	対象	I ガ	が
人口(人)	建物面積(m ²)	不採算地区病院	不採算地区中核病院	看護配置
-	40,068	非該当	非該当	7:1

※1 ド…人間ドック 透…人工透析 I…ICU・CCU 未…NICU・未熟児室 訓…運動機能訓練室 ガ…ガン(放射線)診療

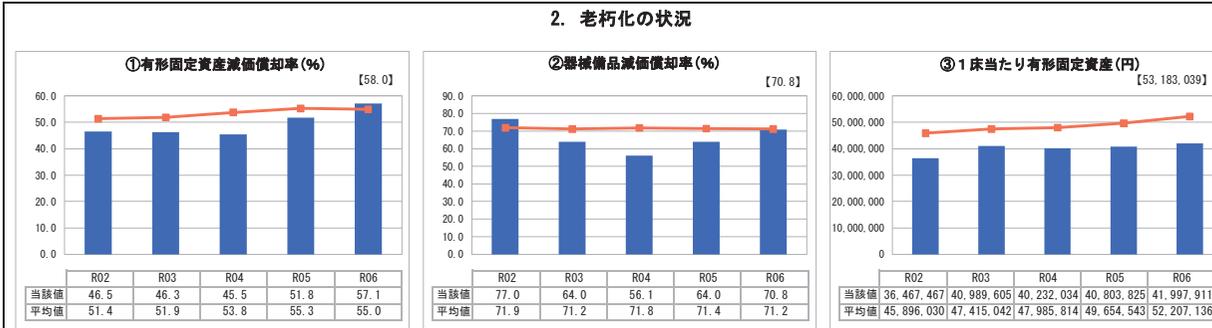
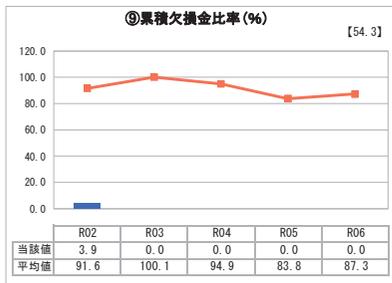
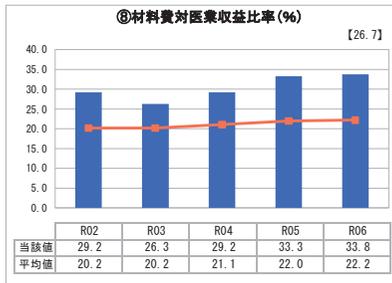
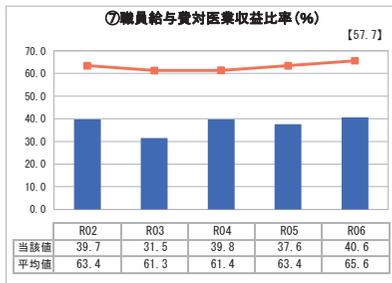
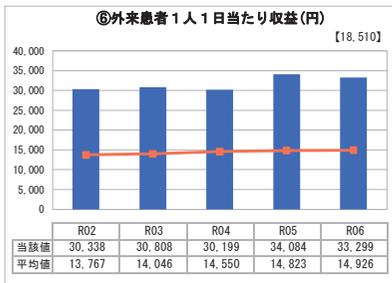
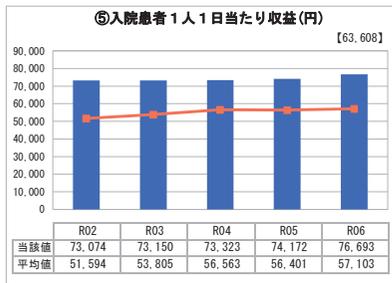
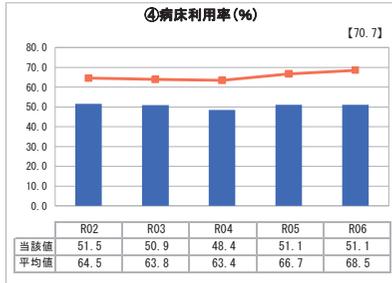
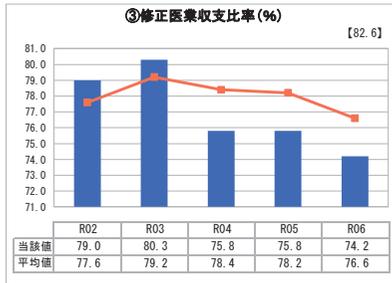
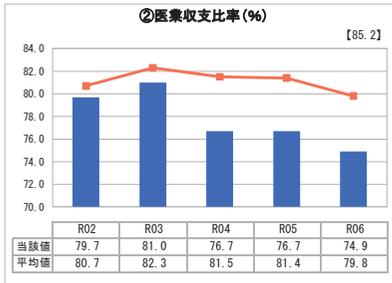
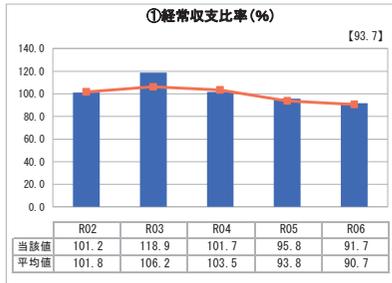
※2 救…救急告示病院 臨…臨床研修病院 が…がん診療連携拠点病院 感…感染症指定医療機関 へ…へき地医療拠点病院 災…災害拠点病院 地…地域医療支援病院 特…特定機能病院 輪…病院群輪番制病院

許可病床(一般)	許可病床(療養)	許可病床(結核)
291	-	-
許可病床(精神)	許可病床(感染症)	許可病床(合計)
-	-	291
最大使用病床(一般)	最大使用病床(療養)	最大使用病床(一般+療養)
185	-	185

グラフ凡例

- 当該病院値(当該値)
- 類似病院平均値(平均値)
- 【】 令和6年度全国平均

1. 経営の健全性・効率性



経営強化に係る主な取組(直近の実施時期)

機能分化・連携強化 (従来の役割・ネットワーク化を含む)	地方独立行政法人化	指定管理者制度導入
-	年度	年度
-	平成28	-
-	年度	年度

I 地域において担っている役割

当センターは、県民が求める高度で専門的ながん医療を安定的に提供するとともに、都道府県がん診療連携拠点病院として県内における医療水準の向上・均てん化を推進するなど、公的使命を果たしながら県民の健康を確保及び増進する役割を担っている。

II 分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

① 経常収支比率、② 医業収支比率、③ 修正医業収支比率
令和6年度は、令和5年度以降2年連続で経常収支比率が100%を下回った。
医業収支比率及び修正医業収支比率も類似病院の平均を下回っているため、入院・外来患者の確保等により医業収益の増加に努める必要がある。
④ 病床利用率
令和5年度と同様の割合となったが、依然として類似病院の平均を下回る状況となっている。
⑧ 材料費対医業収益比率
物価高騰の影響などもあり、類似病院の平均を上回った状態で、前年度から増加している。

2. 老朽化の状況について

① 有形固定資産減価償却率、② 器械備品減価償却率
老朽化が進行しており、前年度よりも増加した結果、令和6年度は有形固定資産減価償却率は類似病院の平均を上回り、器械備品減価償却率は類似病院の平均とほぼ同率となった。今後も、定期的な設備等点検の結果に基づき計画的に更新を実施し、適切な維持管理に努めていく。
③ 1床当たり有形固定資産
各年度とも類似病院の平均を下回っている。

全体総括

経常収支は2年連続の赤字となり、医業収支比率及び修正医業収支比率は依然として類似病院の平均を下回っている。
がん治療の均てん化が進んでいること等により入院患者数が伸び悩んでおり、病床利用率も類似病院の平均よりも低い状況にある。
医師の柔軟な採用等、地方独立行政法人の特長を活かした取組により、入院患者の確保や経費削減など、経営改善に努めている。

※ 「類似病院平均値(平均値)」については、病院区分及び類似区分に基づき算出している。